

発掘新聞

5月10日号

平成28年度第1号

編集・発行

九州歴史資料館

電話 0942-75-9575



越州窯青磁・緑釉陶器など古代の

高級食器が出土—遺跡の性格は？



大野城市西鉄下大利駅から西へ続く県道は、春日市ザ・モール、山陽新幹線車両基地を経て那珂川町ミリカローデンを過ぎると大きく北へ曲がっています。

那珂川に架かる現人橋^{あらひとばし}までほぼまっすぐに延伸する工事が行われています。この発掘調査の原因です。

調査地は大部分が宅地跡で、住宅の基礎や大きな庭木の株などが残っています。

那珂川町仲（ちゅう）で道路建設工事に先立つ発掘調査を実施した宮ノ前遺跡（写真左下の森は現人神社の社叢）

戸後期から戦前・戦後に

に掘られた土坑^{どこう}（ゴミ穴）と溝です。ある場所は火災にあったらしく、食器や瓦などを炭・廃材と一緒に埋め込んだ大きな穴が掘ってあり、そこから左の写真のように大正天皇の即位を祝う「大正四年（1915）十一月十日」のスタンプがある皿が出土しました。この穴からは沢山の食器類やビン類といった出土品があり、大正時代のまとまった資料として重要になりそうです。

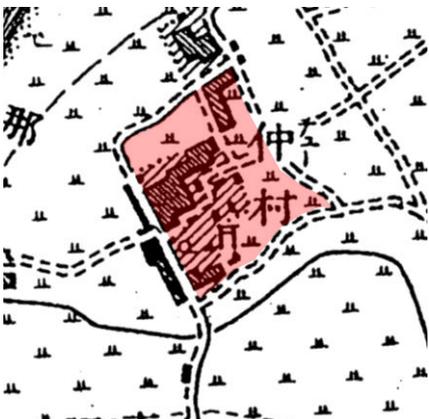


大正天皇は大正元年（1912）7月30日に即位、同4年に京都御所で「即位の礼」を行いました。

江戸時代〜近・現代の出土品に混じって、縄文・弥生・古墳時代の石器や土器、奈良・平安時代の土器などもかなりの量が出土しました。特に越州窯青磁や緑釉陶器は、一般の集落ではなく寺院や役所といった古代の中心的施設の跡から出土することが多く、この宮ノ前遺跡にも謎の古代施設が眠っているものと思われま

す。そういう目で地図を見ると、現人神社を中心に何かの施設があったと想像できる200×150mほどの区画が見て取れます。気になって、夜も眠れません。

（飛野博文記者）



明治時代に作成された地図。中央の鳥居が現人神社。道が方形に配置されていることがよくわかります。

第36回企画展 発掘速報展2016 開催のお知らせ
平成28年7月20日～9月19日 第2展示室（観覧無料）
東九州自動車道建設で発掘した遺物を展示します。乞うご期待。